

**『はなやか関西～文化首都2015～「街道」』
有効性の検証に関する報告書
【最終報告書】**

平成29年6月

国土交通省 近畿地方整備局

『はなやか関西～文化首都2015～「街道」』

有効性の検証に関する報告書

I. 『はなやか関西～文化首都 2015～「街道」』の有効性検証

1. 実施した取組	3
(1) 「街道」実行委員会の組成	3
(2) 実行委員会が実施する取組	4
① 「街道を活かしたまちづくり」シンポジウム	4
② 西国街道 まち歩き	5
③ プロモーション事業	6
2. 有効性の検証	8
(1) プロモーション事業	8
(2) 「街道」シンポジウムの実施	11
(3) 「西国街道まち歩き」の実施	15
3. 総括	17


II. 総括『はなやか関西～文化首都年～』5年間の歩みと今後

1. 5年間の歩み	18
2. 新しい広域地方計画の策定とこれから	19

1. 『はなやか関西～文化首都2015～「街道」』の有効性検証

平成 27 年度に実施した『はなやか関西～文化首都 2015～「街道」』（以下、「本事業」という。）に関する各取組について分析し、その有効性を検証する。

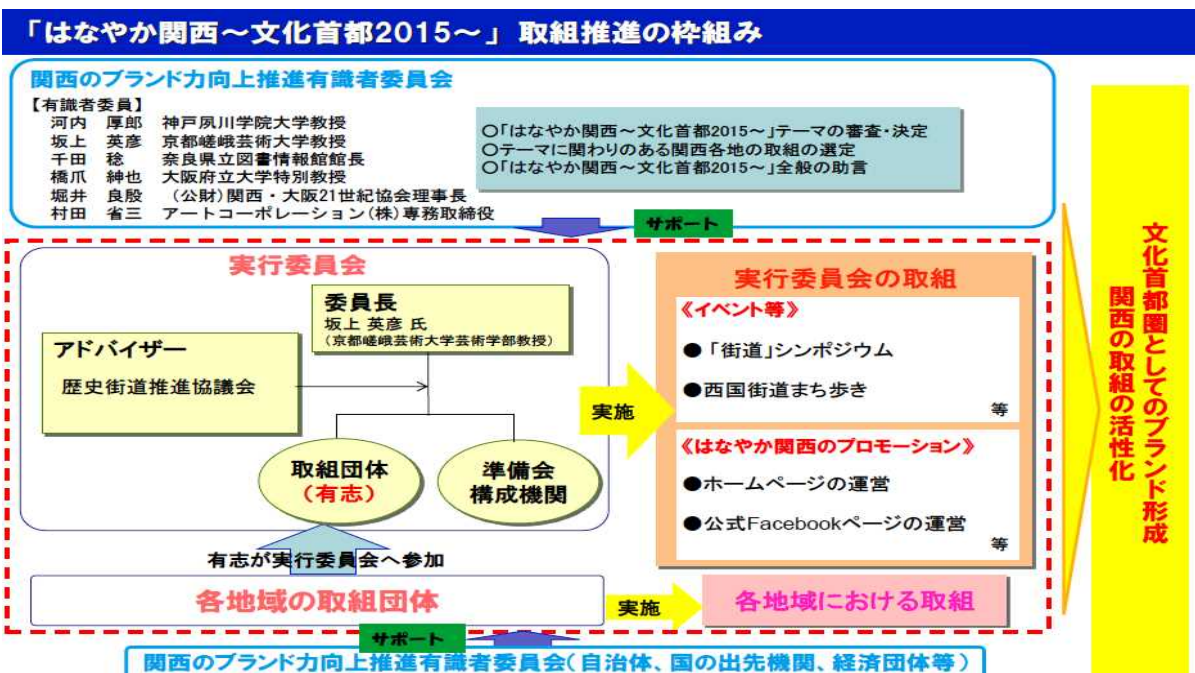
はなやか関西～文化首都2015～「街道」取組内容

<p>プロモーション事業</p> <p>◆ホームページ・Facebookによる広報</p>  <p>http://www.kkr.mlit.go.jp/kokudokeikaku/program/category_plan.html</p> <p>https://www.facebook.com/hanayaka.kansai2015</p>	<p>「街道」シンポジウム(2月)</p> <p>はなやか関西～文化首都2015～「街道を活かしたまちづくりシンポジウム」を開催！</p> <p>実行の近畿圏広域地方計画を推進していく「文化首都圏プロジェクト」の取組として、「街道を活かしたまちづくりシンポジウム」を開催しました。「はなやか関西～文化首都～」事業は、平成23年度より、毎年、文化に関するテーマ（旅の文化、人形浄瑠璃、未文化など）を型取り、シンポジウムや企画ツアーを開催。そして、ホームページやフェイスブック、リフレットなどを活用した地域活性化の取組の情報発信など、関西を元気にする取組を進めています。</p> <p>日時：平成28年2月27日(土) 13:00～16:00 場 所：兵庫県立中央公民館（座席数 約120名）</p> <p>【基調講演】 堀島 英彦 氏（大山崎町歴史資料館 館長） テーマ：「街道の成り立ちと果たしてきた役割」</p> <p>【取組団体報告】 ① 東証江の鶴光ランテアガリ協会 ② NPO法人 わくわくする久美島をつくる会</p> <p>【パネルディスカッション】 テーマ：「街道を活かしたまちづくりの成功」 （コーディネーター） 坂上 英彦 氏（京都嵯峨芸術大学 芸術学部 教授）</p> <p>【パネリスト】 井戸 智彦 氏（歴史街道推進協議会 ネットワーク推進部長） 田中 智子 氏（一社）後方響くらあみふ六市 代表理事） 堀島 英彦 氏（大山崎町歴史資料館 館長） 松倉 昌晴 氏（東城市まちづくり統括役員）</p> <p>※ 当日午前中は、長興堂境内の辨財神社や鶴岡稲荷宮などを通る「西国街道 まち歩き」を実施いたします。（参加費 20名）</p> <p>西国街道 まち歩き(2月)</p> <p>9:00 JR長岡京駅 9:15 神足ふれあい町家 9:50 神足神社 10:00 勝竜寺城公園 10:40 勝龍寺 10:50 中山修一記念館 11:30 阪急山天王山駅 （※総距離 5km程度）</p> <p>西暦784年には長岡京として栄え、古来から幾多の人が「行き交った地域。近世から近代にかけても、人が往來し、物資が流れ、情報や文化の伝播を担う動脈として地域をつないできた「西国街道」。その街道を歩き、長岡京、細川ガラシャ、明智光秀、寺社名の由来、歴史の魅力に触れ、街道ロマンを体感してみませんか？</p> <p>2/27(土) AM 9:00 JR長岡京駅 西口集合</p> <p>（講話/案内） NPO法人 長岡京市ふるさとガイドの会</p> <p>◎ 限定20名 （定員になり次第締切） ◆ 参加費 無料 ※ 小雨決行（荒天中止）</p>
--	--

1. 実施した取組

(1) 「街道」実行委員会の組成

はなやか関西についての実行委員会を組成し、具体的な取組内容の検討及び意見交換の場とした。



(2) 実行委員会が実施する取組

① 「街道を活かしたまちづくり」シンポジウム

歴史の町として栄えてきた関西には、数多くの街道が集積している。そんな街道の魅力を幅広く伝え、地域の活性化・地方創生、ひいては関西の成長・発展に繋がるきっかけを考えることを目的に本シンポジウムを実施した。

【開催時期】

平成28年2月27日(土) 13時00分～16時00分(入場無料:先着申込順)

【会場】

長岡京市立中央公民館 3F市民ホール

【出席者】

120名(市民、地域づくり関係者、文化関係者、行政 等)

【タイトル】

はなやか関西～文化首都 2015～『街道を活かしたまちづくり』シンポジウム

【プログラム】

13:00～13:10	開会挨拶
13:10～13:50	基調講演「街道の成り立ちと果たしてきた役割」 講演者：福島 克彦（戦国史・城郭研究家）
13:50～14:30	取組団体発表 ①東近江市観光ボランティアガイド協会 「『街道』を活用した観光振興への取組」 「東近江の街道～街道沿いにあふれる歴史文化～」 ②NPO法人 わくわくする久美浜をつくる会 「京丹後市久美浜『一区』の“街道と街なみ”整備とにぎわいのとりくみ」
14:45～16:00	パネルディスカッション 「街道を活かしたまちづくりのあり方」 ・コーディネーター 坂上 英彦（京都嵯峨芸術大学芸術学部教授） ・パネリスト 井戸 智樹（歴史街道推進協議会ネットワーク推進部長） 田中 誓子（(一社)枚方宿くらわんか五六市代表理事） 福島 克彦（戦国史・城郭研究家） 松倉 昌明（葛城市まちづくり統括技監）

[敬称略、順不同]



長岡京市長挨拶



基調講演



会場風景



取組団体発表①



取組団体発表②



パネルディスカッション

② 西国街道 まち歩き

西暦784年には長岡京として栄え、古来に幾多の人が行き交った西国街道を実際に歩くことで地域の魅力を感じてもらうことを目的に実施した。定員になるほど盛況であり、当日は長岡京市ふるさとガイドの会による解説を聞きながらのまち歩きとなった。天候にも恵まれ、老若男女多くの方に街道ロマンを体験していただくことができた。

- 【催行日】 平成 28 年 2 月 27 日 (土)
- 【行程】 JR長岡京駅 西口 AM9:00 集合
- ▼
- 9:15 神足ふれあい町家
- ▼
- 9:50 神足神社
- ▼
- 10:00 勝竜寺城公園
- ▼
- 10:40 勝龍寺
- ▼
- 10:50 中山修一記念館
- ▼
- 11:30 阪急西山天王山駅

【参加費】 無料

【参加人数】 20 名



神足ふれあい町家～神足神社



勝龍寺



中山修一記念館

③ プロモーション事業

本事業の取組を広く情報発信するために、前年度に引き続きホームページ上での情報発信を行った。さらに、取組の認知度向上のために非常に有効と考えられるSNSとして「はなやか関西 公式フェイスブックページ」の運用を昨年度に引き続き行った。なお、具体的取組についても、実施時期を考慮しながらそれぞれチラシを作成し、これらのツールを活用しながらプロモーションを行った。

●ホームページ上での情報発信

実行委員会の取組、「取組参加団体」等の情報をホームページ上より発信した。

The screenshot shows the website for 'はなやか関西 ~文化首都2015~'. The main banner features a collage of images including cherry blossoms, a traditional Japanese building, and a torii gate. Below the banner is a navigation bar with links to 'ホーム', '近畿圏広域地方計画', '計画推進info', and 'はなやか関西~文化首都2015~'. The '計画推進info' section is highlighted in green and contains the following text:

はなやか関西~文化首都2015~

「はなやか関西~文化首都2015~」は、近畿圏広域地方計画の主要プロジェクト「文化首都圏プロジェクト」を推進する取組です。関西の特徴である文化の集積を活かし、関西各地の地域資源を特定のテーマによって広域的に連携させ、関西が一丸となって支援や情報発信を行うことを通じて、関西を文化首都圏として発展させることを目指します

[>> 詳しくはこちら](#)

文化首都圏プロジェクト情報	シンボルイベント コアイベント	取組参加 団体情報	会議情報	プロモーション ツール
2016/02/27	「街道を活かしたまちづくり」シンポジウム・西国街道まち歩きを開催しました！NEW			
2016/01/20	はなやか関西~文化首都2015~「街道を活かしたまちづくり」シンポジウムを開催します！			
2015/10/01	はなやか関西~文化首都年~2014「関西の食文化」最終報告書をUPしました！			
2015/03/04	はなやか関西「関西の食文化」シンポジウム2014開催概要			
2015/01/19	『はなやか関西~文化首都2015~』テーマが決定			

On the right side of the page, there is a sidebar with several menu items:

- 近畿圏広域地方計画
- 近畿圏広域地方計画とは
- 関西の目指す姿
- 目指す姿を実現するための戦略
- 主要プロジェクト
- これまでの取り組み
- 国土形成計画
- 計画推進info
- はなやか関西~文化首都2015~
- News Letter
- 近畿圏広域地方計画全文 (PDF)
- 近畿圏広域地方計画 参考資料 (PDF)
- パンフレット

● 『はなやか関西～文化首都2015～「街道」』公式フェイスブックページ

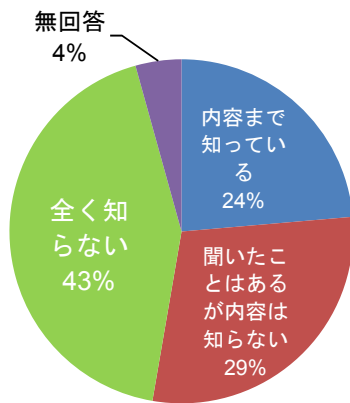
SNSとして知名度が高く取組の認知度向上に非常に有効と考えられる、フェイスブックを活用し、街道シンポジウム、西国街道まち歩きを開催案内や開催後の報告をした。

また、はなやか関西～文化首都2015～「街道」以外の取組である斑鳩町主催で開催された「斑鳩市～夏の陣～」や昨年度の「関西の食文化」PRの取組で協力いただいた灘五郷酒造組合によるイベント「灘の酒・SUMMERガーデン」の開催案内などの各方面の情報発信も行った。

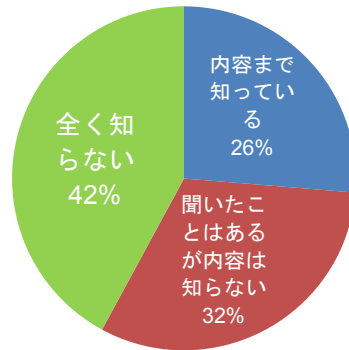


●本事業の取組に対する認知度

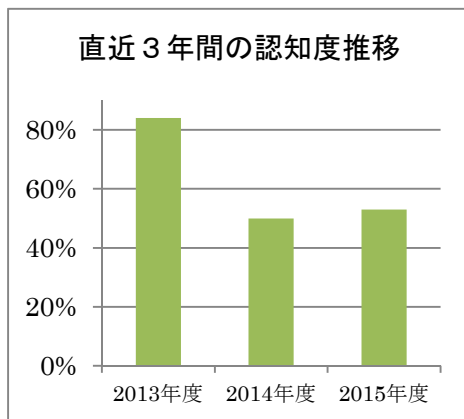
Q. 国土交通省近畿地方整備局の「はなやか関西～文化首都～」という取組をご存知でしたか。



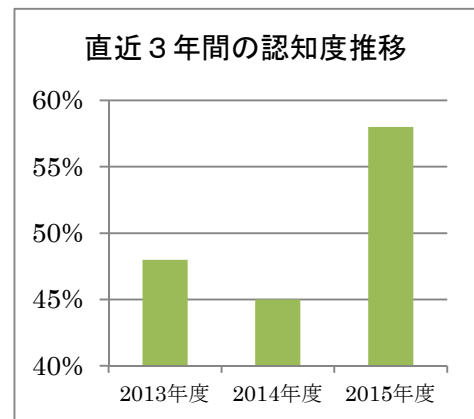
「街道」シンポジウム参加者



「街道」まち歩き参加者



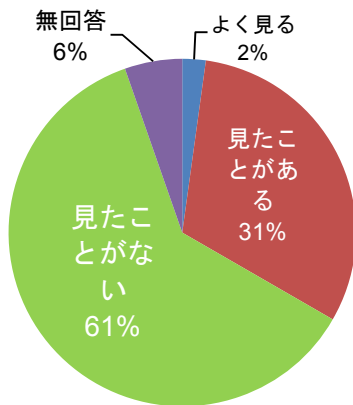
「街道」シンポジウム参加者



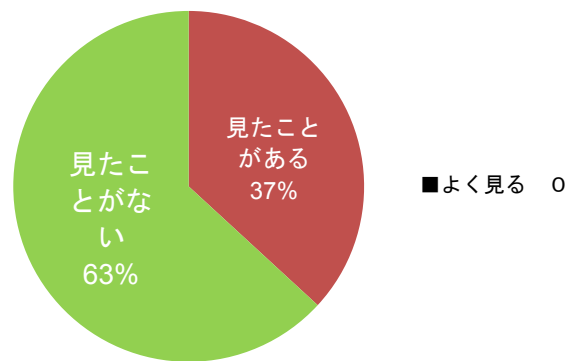
「街道」まち歩き参加者

●ホームページ・フェイスブックの認知度

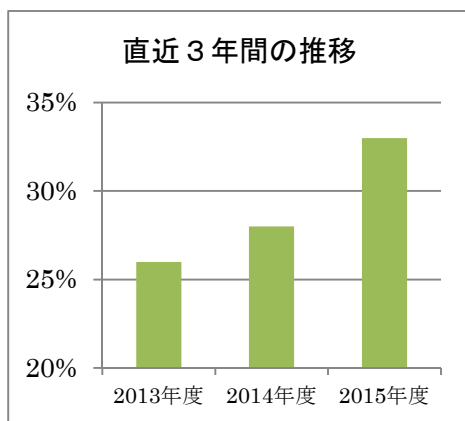
Q. 「はなやか関西～文化首都～」のホームページ・フェイスブックをご覧になったことがありますか。



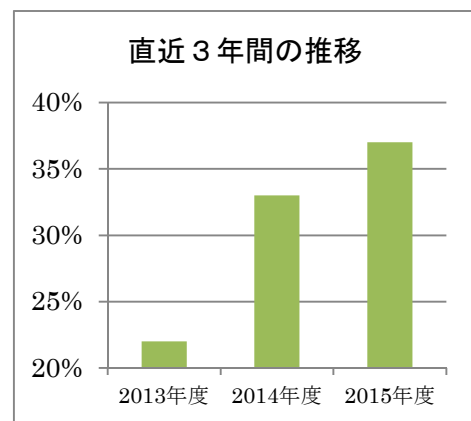
「街道」シンポジウム参加者



「街道」まち歩き参加者



「街道」シンポジウム参加者



「街道」まち歩き参加者

(2) 「街道」シンポジウムの実施

「街道」シンポジウムについては、参加者数が120名であり、一定の集客がなされた。

参加者の年齢をみると、20歳代～70歳代まで幅広い年齢層の参加者を集めることができた。開催日が土曜日、また、阪急長岡天神駅から徒歩約6分と会場へのアクセスも良いことから一定の集客数を得ることができた。シンポジウムの参加者の中には、同日の午前中に開催した「西国街道まち歩き」から引き続き参加した人もいたことから、西国街道まち歩きとシンポジウムを同日に開催したことによる集客効果もあったと考えることができる。

参加者の居住地については、開催地が長岡京市ということもあり、京都府内からの参加者が50%と最も多く、次いで大阪府内からの参加者が約40%となった。その他、福井県を含め近畿圏内の各県からの参加者もみられ、開催地周辺からだけでなく、幅広い地域から参加いただくことができた。

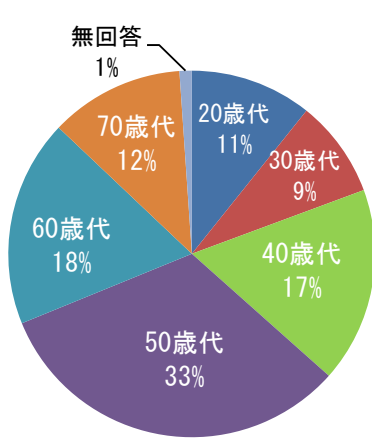
参加のきっかけを確認したところ「チラシ・パンフレット」「HP・インターネット」を合わせると52%と約半数を占めていることから、シンポジウム開催の情報発信について一定の効果があつたとうかがうことができる。

来場目的・動機については、「基調講演について興味があつた」「取組団体発表に興味があつた」「パネルディスカッションに興味があつた」との回答で半数以上を占めていることから、本シンポジウムのプログラム内容への関心の高さをうかがうことができる。また、「地域活性化等についてヒントを得るため」との回答が26%と参加者の約4分の1を占める結果となった。このことから、参加者は単に街道に興味があつて参加しただけではなく、街道を通じて地域のことを考えたいという参加者の自分たちの地域に対する意識の高さをうかがうことができ、主体的に本シンポジウムに参加いただくことができたものとする。

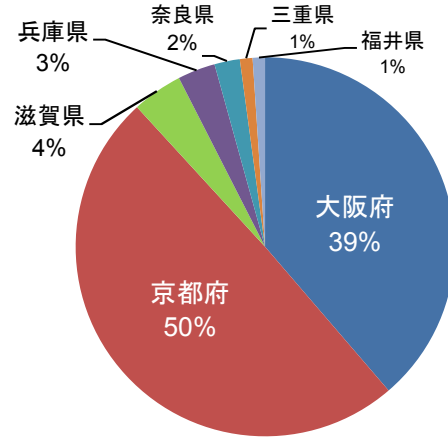
「関西＝文化首都」の印象はあるか、関西における「本物の文化」の継承・発展に取り組み、国内外へ魅力を発信することに意義があると思うか、という項目においては「非常に思う」「思う」といった前向きな回答がそれぞれ80%、90%を超えており、関西には歴史的な魅力が数多くあるといった共通の認識を多くの人が持っているとうかがうことができる。

また、「街道を活かしたまちづくり」に対しての理解・関心については、80%弱において「非常に深まった」「深まった」という回答があり、関西にある「本物の文化」を感じることもできたかについては、70%弱において「深まった」「感じることもできた」という回答があり、比較的高い評価を得ることができた。本シンポジウムを通じて、関西への歴史に対する共通の認識を持った参加者へ、更なる意識の向上を図ることができたのではないかと考える。

●シンポジウムの参加者

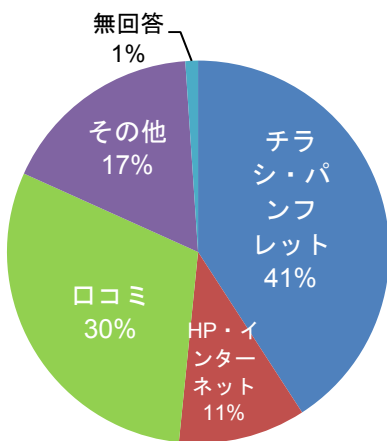


参加者年齢構成

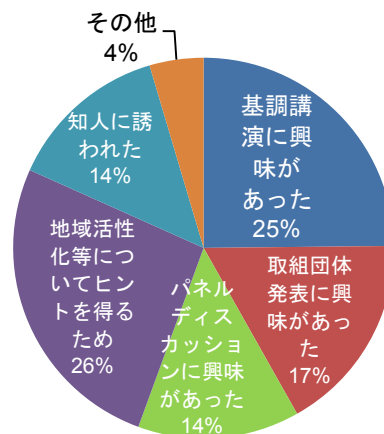


参加者居住地

●シンポジウムへの参加理由

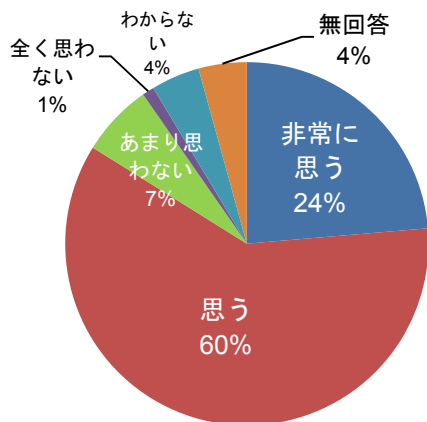


参加のきっかけ

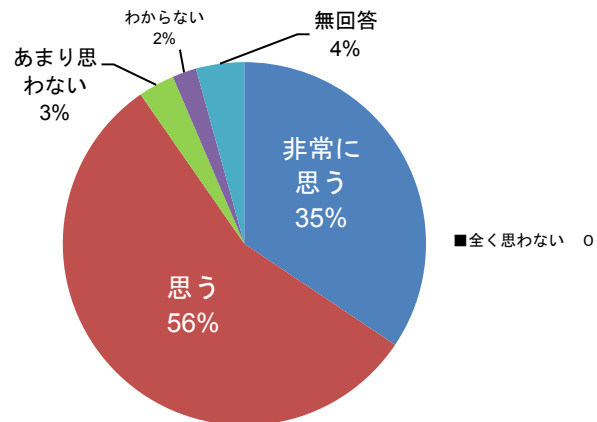


来場目的・動機（複数回答）

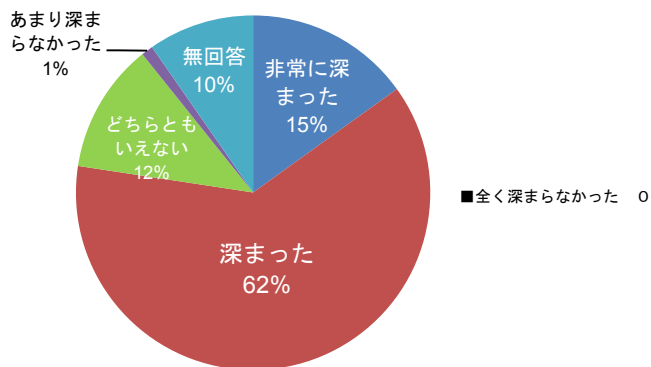
●シンポジウム終了後の感想



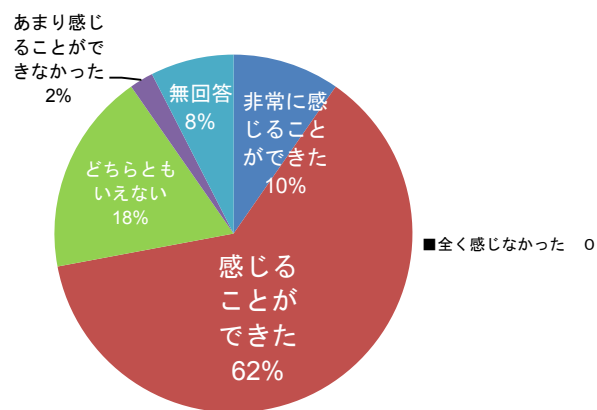
関西は「本物の文化」が今も根付く、我が国いちばんの地域（文化の首都）だと思いますか



関西の「本物の文化」の継承・発展に取り組み、国内外へ魅力を発信することに意義があると思いますか



シンポジウムを通じて、「街道を活かしたまちづくり」に対する理解・関心は深まりましたか



シンポジウムを通じて、関西にある「本物の文化」を感じる事ができましたか

●シンポジウムに関する自由記述

Q. 今後、関西の「本物の文化」をより広く伝えていくため、活かすべき「関西文化の象徴」といえるものや有効な取組などについて、ご意見をお聞かせください。

- ・あまり知られていない各地域に根付く文化、文化財等の形に残るものだけでなく、精神文化をいかに伝承させていくかということが本物の文化を考えるうえでとても重要だと思う。
- ・インターネットの多言語による発信とイベント、海外での展示会、体験を行う、市民とのコラボで日常的に本物の文化を体験する。
- ・過去の取組団体等も巻き込んだ大きな流れとして様々な文化向上に取り組んでいただきたい。
- ・マイナーな観光スポットはたくさんあるが、それを如何にしてメジャーにするか一街道を中心にさらに整備して魅力ある街道にして“あふれる歴史文化を”をモットーに観光客を呼ぶ一地域の関係部署が一丸となる必要あり。
- ・街道を先人との接点となる碑文を設けるような、他国で見られる取組をしてはどうでしょうか。
- ・陽のあたっていない地域の開発に注力してもらいたい。
- ・今回のような取組が継続されていれば十分だと思います。いろいろな取組を知る機会をいただき感謝します。次回を楽しみにしています。
- ・地域の方々が自分たちのまちに誇りや愛着を持つ取組が改めて必要と感じた。
- ・いろいろな地域の取組を知る機会があってよかったです。関西は旧街道が張り巡らされているので、各地域の取組が同じではダメということを改めて感じました。
- ・今回のシンポジウムでももっと個々のPRがあっても良いのではないかと。取組団体のパンフレットなどももっとあった方が良いのではないかと。
- ・各地域各街道の連携がとても重要で、もっと関西+日本を活性化させることができますと思います。
- ・歴史好きの子どもが増えるような体験型のイベントを学校活動と合わせるなどしていただくと、子どもの興味から家族の観光へ発展していくのではないのでしょうか。

(3) 「西国街道まち歩き」の実施

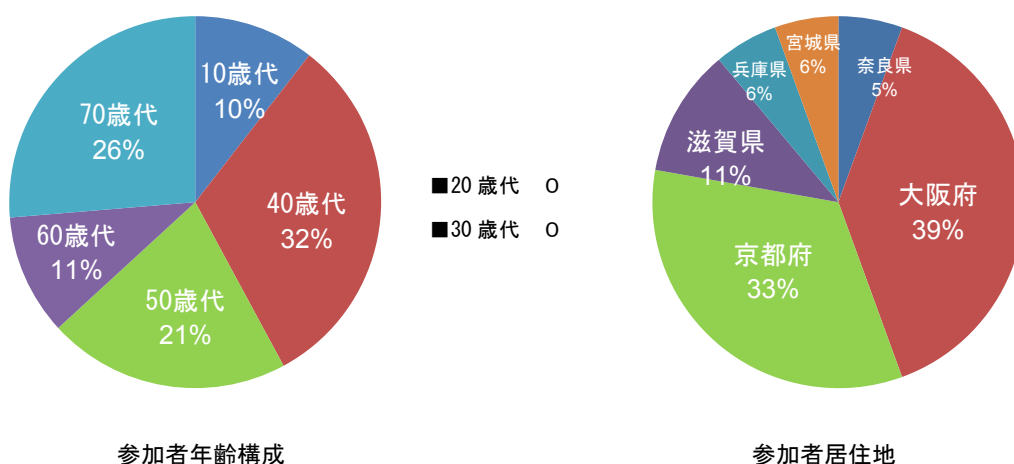
アンケート結果をみると、参加者年齢構成では40歳代以上が数多く占める結果となった。当日の参加者の中には親子での参加もみられたことから、若い世代にも歴史について触れていただく機会を提供することができた。参加者の居住地については、シンポジウム同様に大阪府内、京都府内で半数以上を占めたが、他府県からの参加者もみられ、幅広い地域から参加いただくことができた。

参加のきっかけでは、「チラシ・パンフレット」による参加者が最も多く、次いで「HP・インターネット」「口コミ」による参加者が多い結果となった。参加目的・動機をみると、「西国街道に興味があったから」「長岡京周辺地域に興味があったから」で約70%を占めていることから、地域の魅力を感じて参加した人が多いと考えることができる。

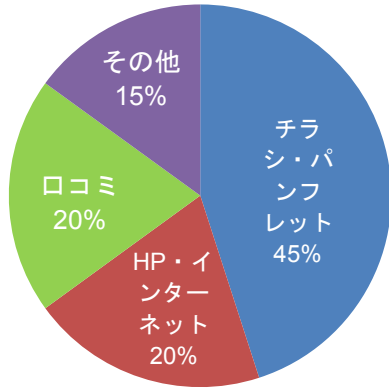
「関西＝文化首都」の印象はあるかという問いに対しては、「非常に思う」「思う」という回答が95%であり、関西における「本物の文化」の継承・発展に取り組み、国内外へ魅力を発信することに意義があると思うかという問いに対しては、参加者の全員から「非常に思う」「思う」といった前向きな回答を得ることができた。以上より、シンポジウムの参加者と同様、関西に対する歴史・文化について、共通の認識を持っているとうかがうことができる。

本まち歩きを通じて、「街道を活かしたまちづくり」に対する理解・関心は深まったかという問いに対しては「非常に深まった」「深まった」という回答が約70%あり、関西にある「本物の文化」を感じることができたかという問いに対しては「非常に感じることもできた」「感じることもできた」という回答が約80%となった。このように、まち歩き後の問いに対して、前向きな回答を比較的多く得ることができた。実際に街道を歩いてまち並みを目にすることによって、関西の歴史に対する意識の向上や更なる興味・関心への深まりへつなげることができたのではないかと考える。

●シンポジウムの参加者

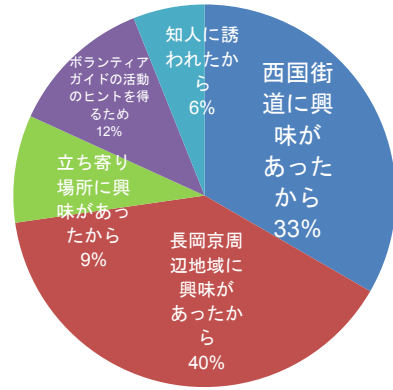


●シンポジウムへの参加理由



参加のきっかけ

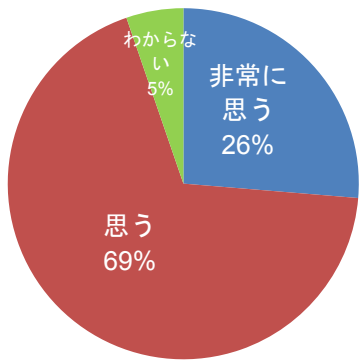
■Facebook 0



参加目的・動機（複数回答）

■その他 0

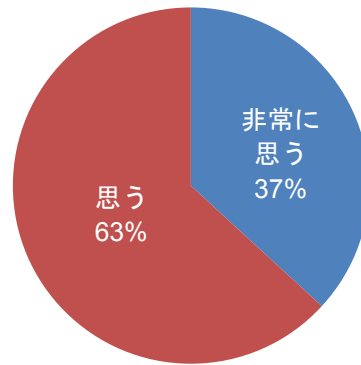
●シンポジウム終了後の感想



関西は「本物の文化」が今も根付く、我が国いちばんの地域（文化の首都）だと思いますか

■あまり思わない 0

■全く思わない 0

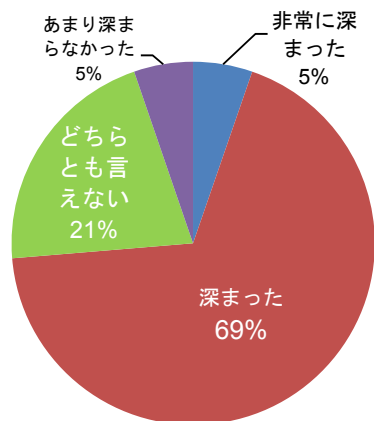


関西の「本物の文化」の継承・発展に取り組み、国内外へ魅力を発信することに意義があると思いますか

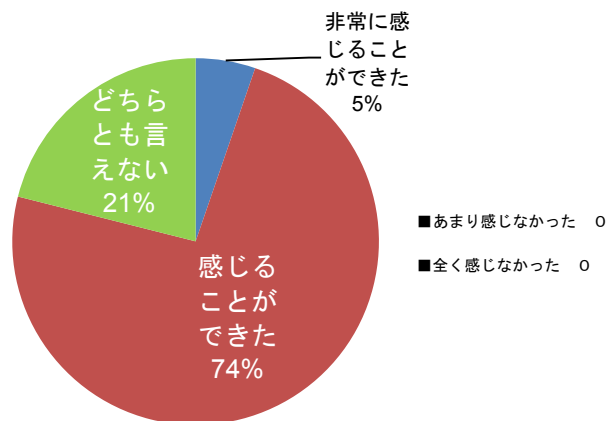
■あまり思わない 0

■全く思わない 0

■わからない 0



まち歩きを通じて、「街道を活かしたまちづくり」に対する理解・関心は深まりましたか



まち歩きを通じて、関西にある「本物の文化」を感じる事ができましたか

●まち歩きに関する自由記述

- Q. 今後、関西の「本物の文化」をより広く伝えていくため、活かすべき「関西文化の象徴」といえるものや有効な取組などについて、ご意見をお聞かせください。
- ・現在開発されていない地域の取組が求められる。各地域のニーズをくみ上げてほしい。
 - ・建物、史跡より、人が伝えてきた伝来、祭り、儀式など無形の文化を知ることが、より本物の文化に触れることだと思う。
 - ・義務教育で時間を割く。市民参加の今日のようなイベントを続けてください。
 - ・個別に取組むのではなく、物語などでつなげて発信することが必要だと思う。
 - ・各々の行政や団体が様々な取組が見られ、それはそれで良いが複数・広域等で広く大きく連携しての取組が望まれる。

3. 総括

プロモーション事業の実施やシンポジウム等の開催により、関西の「街道」及び各取組団体の活動の認知度向上、文化首都圏・関西のPRに一定の成果があったと考えられる。

また、取組団体による活動報告やまち歩きの開催により、経済波及効果、文化首都圏・関西のPRに一定の成果があったと考えられる。

全体として、平成27年度を通して実施してきた「街道」の取り組みは、一般市民をはじめとした多様な人々への関西ブランドの意識向上に一役買い、「はなやか関西～文化首都年」の取り組みが目指した、関西が文化首都圏になることへの実現に寄与したものとする。

II. 総括 『はなやか関西～文化首都年～』 5年間の歩みと今後

1. 5年間の歩み

平成 21 年 8 月に決定された近畿圏広域地方計画において、多様で厚みのある文化の集積を活かし、我が国を代表し牽引する役割を担う圏域の形成を目指す『文化首都圏プロジェクト』の取組の一つとして、関西の本物の資源「ほんまもん」を活かした「関西ブランド」の創造が位置づけられた。

その具体化に向けて、広域地方計画協議会構成機関で構成された「関西のブランド力向上に関する検討会」による検討が行われた結果、関西各地に存在する本物の資源を活かした地域づくりやものづくり等に関する多様な取組について、特定のテーマ毎に一括りにし、そのテーマに沿った連携事業・情報発信・イベントなどを、関西が一丸となって、テーマ毎に年次を定めて順次行っていく取組をモデル実施することが決定し、平成 23 年度から平成 27 年度にわたり、精力的に実施されてきた。

この取組は、関西の企業・住民・公的機関が、幅広くかつ広域的に連携して地域づくりへ参加することによって、関西発の観光立国や関西の産業への投資や需要の拡大が実現し、関西が、我が国を牽引する文化首都圏となることを目指したものであった。

平成 23 年度は「茶の文化」、平成 24 年度は「人形浄瑠璃」、平成 25 年度・平成 26 年度は「食文化」、平成 27 年は「街道」と、いずれも関西において歴史的な由縁があり、また、物語性を提示できる独創的なテーマが選定された。

各年度においては、選定されたテーマに関わるフォーラムやシンポジウムを開催し、幅広い年齢層、地域の方々からご参加をいただいた。各界の有識者にご講演や、パネリストとして活発な議論を交わしていただき、また、多様な文化の見学ツアーや体験イベントなどを実施し、参加者に日常では触れる機会の少ない文化を体験していただくことで、関西ブランドの情報発信や、伝統文化の普及啓発に、効果があったと考えられる。

当初からホームページの開設により、平成 24 年度からはフェイスブックを活用したプロモーションを展開し、「はなやか関西～関西文化年～」のみならず、テーマ毎の取組参加団体が実施する取組の紹介を行うなど、多様なツールでの情報発信も行った。

また、年度毎に事業の有効性の検証を行い、翌年度に新たな事業を展開するにあたって検証結果を活用することで、事業の改善・向上に繋げることができた。

「はなやか関西～文化首都年～」は、一般市民、地域づくり関係者、文化関係者、行政関係者等、幅広い方々のご参加をいただき、広く認知されてきた。フォーラム開催等にあわせて実施したアンケートにおいても好評を得ており、幅広い層による広域的な地域づくりへの参加という当初の目的を果たし、一定の成果が得られたものとする。

2. 新しい広域地方計画の策定とこれから

平成 28 年 3 月に関西広域地方計画が決定され、今後 10 年間の関西の目指す姿が新たに示された。新しく定められた広域地方計画では、関西の目指す姿を実現するためのプロジェクトの一つとして「歴史・文化・おもてなしプロジェクト」が位置づけられている。その中では、歴史・伝統文化の継承・活用と新たな地域資源の発掘・育成事業として、歴史的価値の高い建造物とその周辺の市街地など、歴史・文化資産の保全・活用を行うことや、「はなやか関西」を中心とした「関西ブランド」の確立により、関西の価値や魅力を高め、文化施設の連携事業を通じた多様な文化資源のPRやシンポジウムなどの取組を通じて国内外に広く情報発信を行うことなどがうたわれている。

これらの個別のプロジェクトは多様な主体によって計画・推進されており、引き続き、関西の歴史・文化の魅力は発信されていくものと考えている。

最後に、「はなやか関西～文化首都年～」を実施するにあたっては、関西のブランド力向上推進有識者委員会の委員の方々並びに実行委員会の委員の方々には並々ならぬご尽力を賜りました。紙面を借りて、厚く御礼を申し上げます。